

## ネットワンシステムズ

## 埼玉県の職員約13,000名が利用する先進仮想基盤と約400施設を接続する県全域のネットワーク基盤を構築

ネットワンシステムズは、埼玉県の職員約13,000名が利用する、情報系システムを稼働させる先進仮想基盤、並びに、約400施設を接続する県全域の大規模な共通高速ネットワーク基盤（以下、県庁LAN）を構築した。これらの情報基盤は本年2月から本稼働を開始している。埼玉県は、仮想基盤に耐障害性を高める仕組みを導入することによって、県民サービスの継続性向上を実現した。また、県庁LANの高速化によって、県職員の業務効率も向上している。

今回構築した仮想基盤では、職員約13,000名が利用する大規模なメールシステム・アカウント管理・DNS・ウィルス対策・ファイルサーバなどの情報系システムが稼働している。また、これらシステムを利用する県庁LANは、本庁舎、地方・合同庁舎、単独庁舎および県立学校など約400施設を結んでおり、県民サービスや職員の事務を支える税務システム・土木積算システム・財務会計システムなどの約100個の業務系システムが接続されている。

埼玉県より、情報系システムの稼働基盤および県庁LANの構築に対して、「物理サーバ群の集約」「耐障害性の向上」「運用体制の改善」などの要望があった。物理サーバ群の集約については「VMware vSphere 5」で仮想環境を構築することによって、従来の物理サーバ約30台を15台へと約50%削減している。また仮想マシンデータおよびファイルサーバ用の共有ストレージには「EMC VNX 5700」を用いている。耐障害性を高めるための仕組みとして、サーバには「Cisco UCS Bシリーズブレードサーバ」を採用した。サーバに障害が発生した際には、Cisco UCS特有の機能である、サーバの設定情報をまとめたサービスプロファイルを予備のブレードサ

ーバに割り当てることによって、迅速なサービス復旧を可能としている。また、効率的なデータバックアップのために、重複除外機能が利用可能な「EMC DataDomain DD640」を選定した。

運用面では、ITIL V3のベストプラクティスに基づき、約半年に渡って埼玉県と情報交換を実施した。その結果、運用業務を可視化するとともに、改善を容易にする運用体制を構築している。ここで定型化された業務（障監視／セキュリティ監視／ヘルプデスク業務）は、ネットワンシステムズの遠隔運用監視サービスを活用することで、運用コスト削減を実現した。

仮想基盤における主な導入機器は以下のとおり。

- ・仮想化ソフト：VMware vSphere 5
- ・サーバ：Cisco UCS Bシリーズブレードサーバ
- ・共有ストレージ：EMC VNX 5700
- ・重複除外バックアップ：EMC Data Domain DD640

新規仮想基盤および県庁LANの構築にあたり、埼玉県 企画財政部 情報システム課の清水氏は「今回構築した情報基盤は、特定技術に依存しないオープンな環境にすることができました。また、通信速度が向上したことで、現在は単にデータをファイルサーバに置く形ではありますが、簡易的なシンクライアント環境の利用を進めています。今後は、よりセキュアな情報の利活用および運用負荷削減のために、本格的な仮想デスクトップ環境等も視野に入れながら、担当内において議論しています。さらに、この度構築した仮想環境を活かした形で、災害時の事業継続対策についても検討していきたいと考えています」と語っている。

ネットワンシステムズ TEL：03-4580-9109